

5 人権について

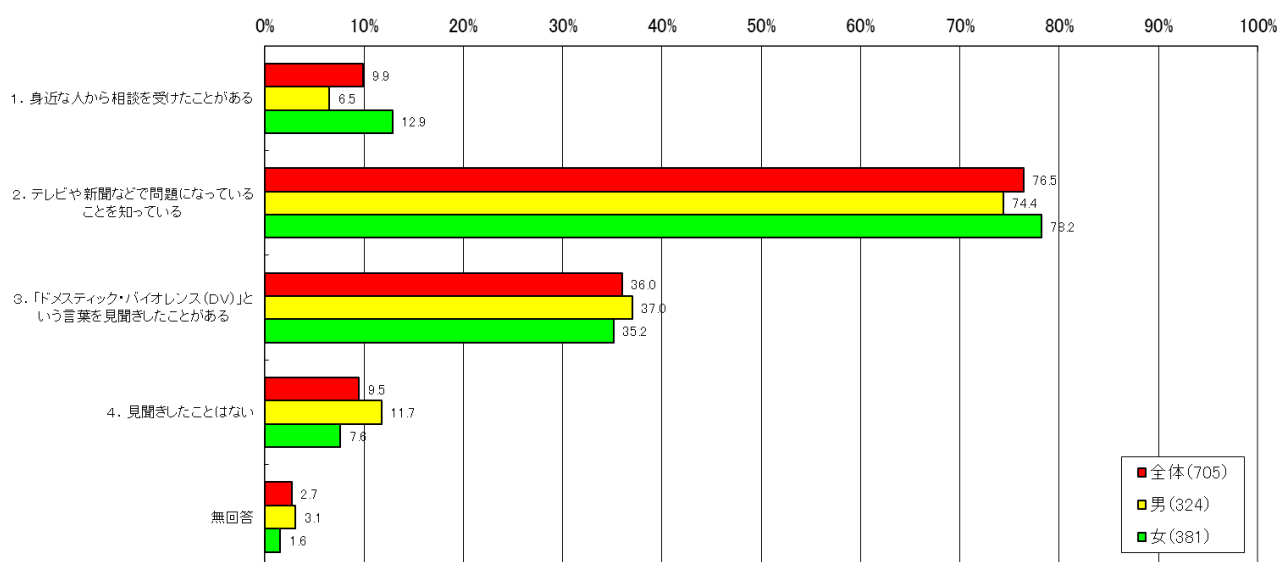
5-1 ドメスティック・バイオレンス（DV）の認知度

問19 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について身近で見聞きしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

【全体】

「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」と回答した割合が76.5%で最も高く、次いで「ドメスティック・バイオレンス（DV）」という言葉を見聞きしたことがある」と回答した割合が36.0%となっており、多くの人々がドメスティック・バイオレンス（DV）という言葉を見聞きしたことがあると回答しています。

一方、「見聞きしたことはない」と回答した割合は、9.5%となっており、約1割の人がドメスティック・バイオレンス（DV）という言葉を見聞きしたことがないと回答しています。

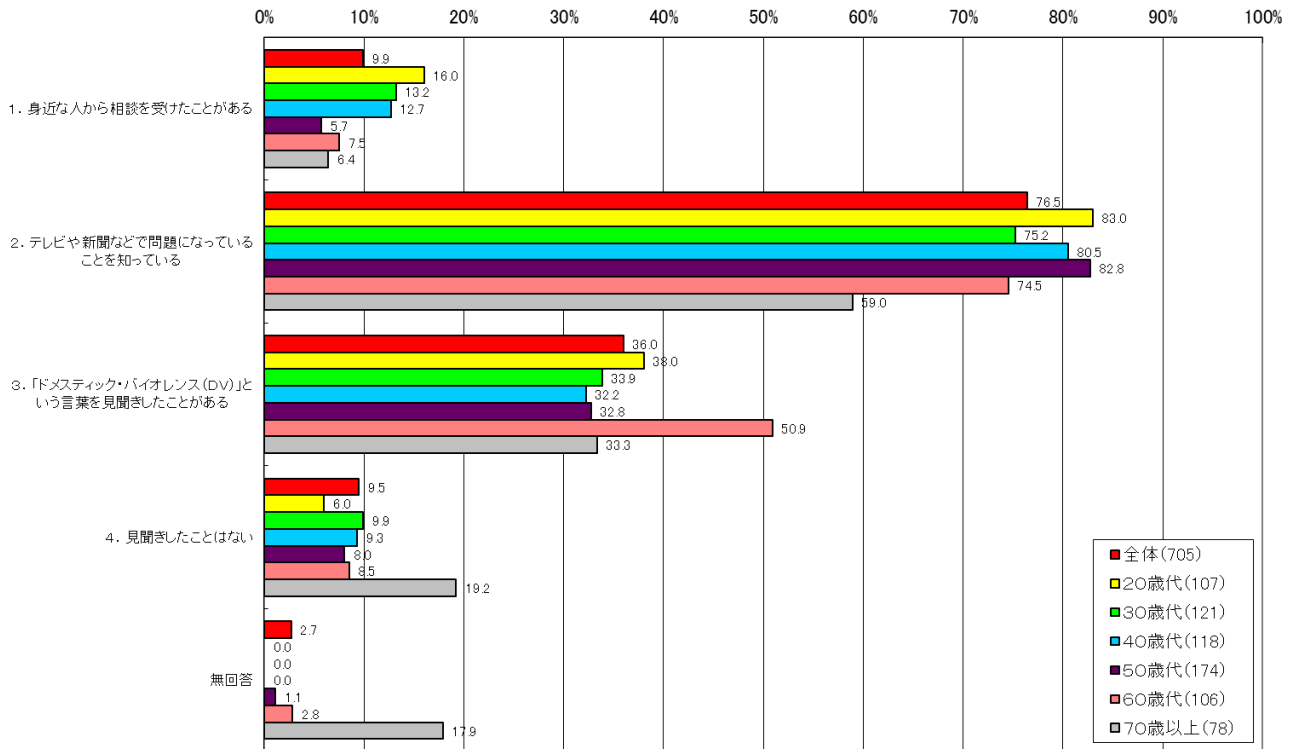


【性別】

男女とも「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」と回答した割合（男性74.4%、女性78.2%）が最も高くなっています。

「身近な人から相談を受けたことがある」と回答した割合は、男性回答者が6.5%であるのに対して、女性回答者が12.9%と1割を超えており、男性回答者よりも女性回答者のほうが相談を受けることが多いことが推察されます。

「見聞きしたことはない」と回答した割合は、男性回答者が11.7%であるのに対して、女性回答者が7.6%と、女性回答者よりも男性回答者のほうが高くなっています。



【年齢別】

「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」と回答した割合は、20歳代で83.0%と最も高く、次いで50歳代で82.8%、最も低い70歳以上でも59.0%と約6割を占めており、いずれの年齢層でも最も高くなっています。

「身近な人から相談を受けたことがある」と回答した割合は、20歳代で16.0%で最も高く、次いで30歳代で13.2%、40歳代で12.7%の順で高くなっているのに対し、50歳以上では1割に満たず、若い年齢層の人のほうが相談を受けた経験が多いことが推察されます。

「見聞きしたことがない」と回答した割合は、20歳代から60歳代までいずれの年齢層でも1割に満たないのに対し、70歳以上では19.2%と約2割で、他の年齢層よりもドメスティック・バイオレンス（DV）という言葉を見聞きしたことがない人が多くなっています。

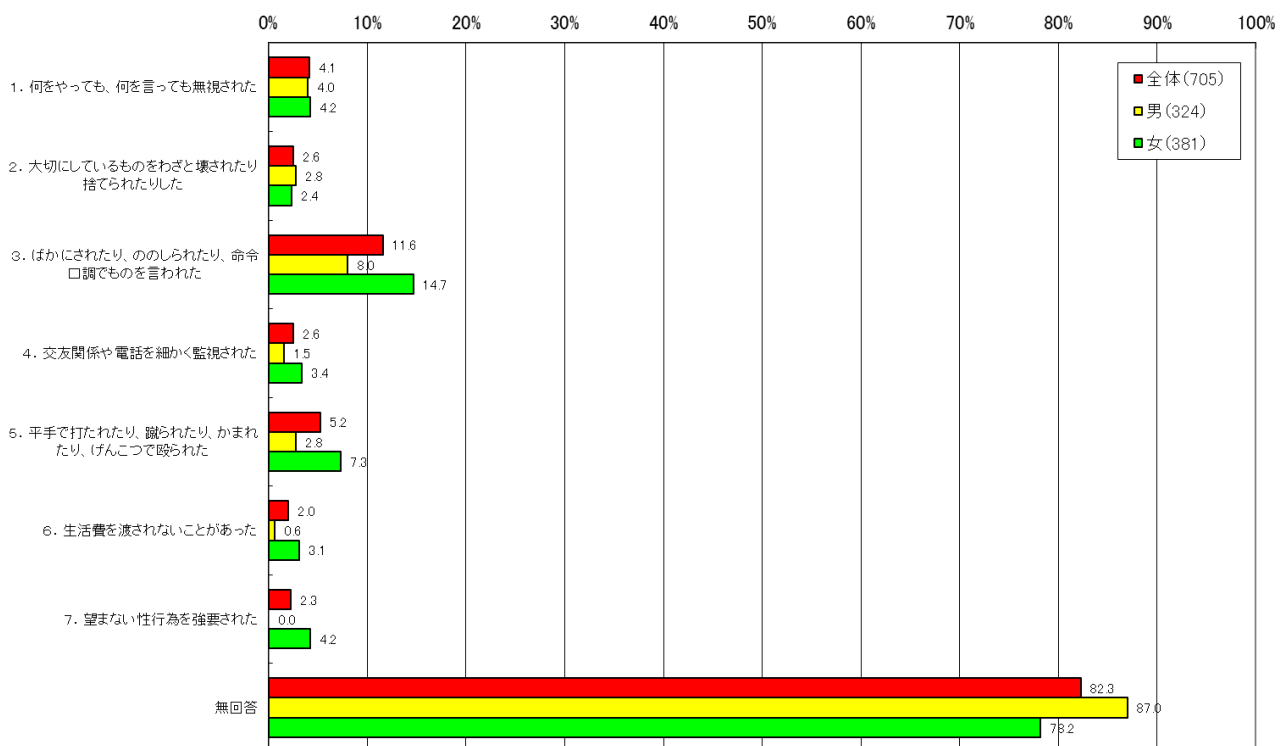
5-2 配偶者等の暴力の経験

問20 あなたは、次のような行為をパートナーから受けたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「無回答」が82.3%と最も多く、8割以上の方についてはパートナーから暴力を受けたことはないという結果になっています。

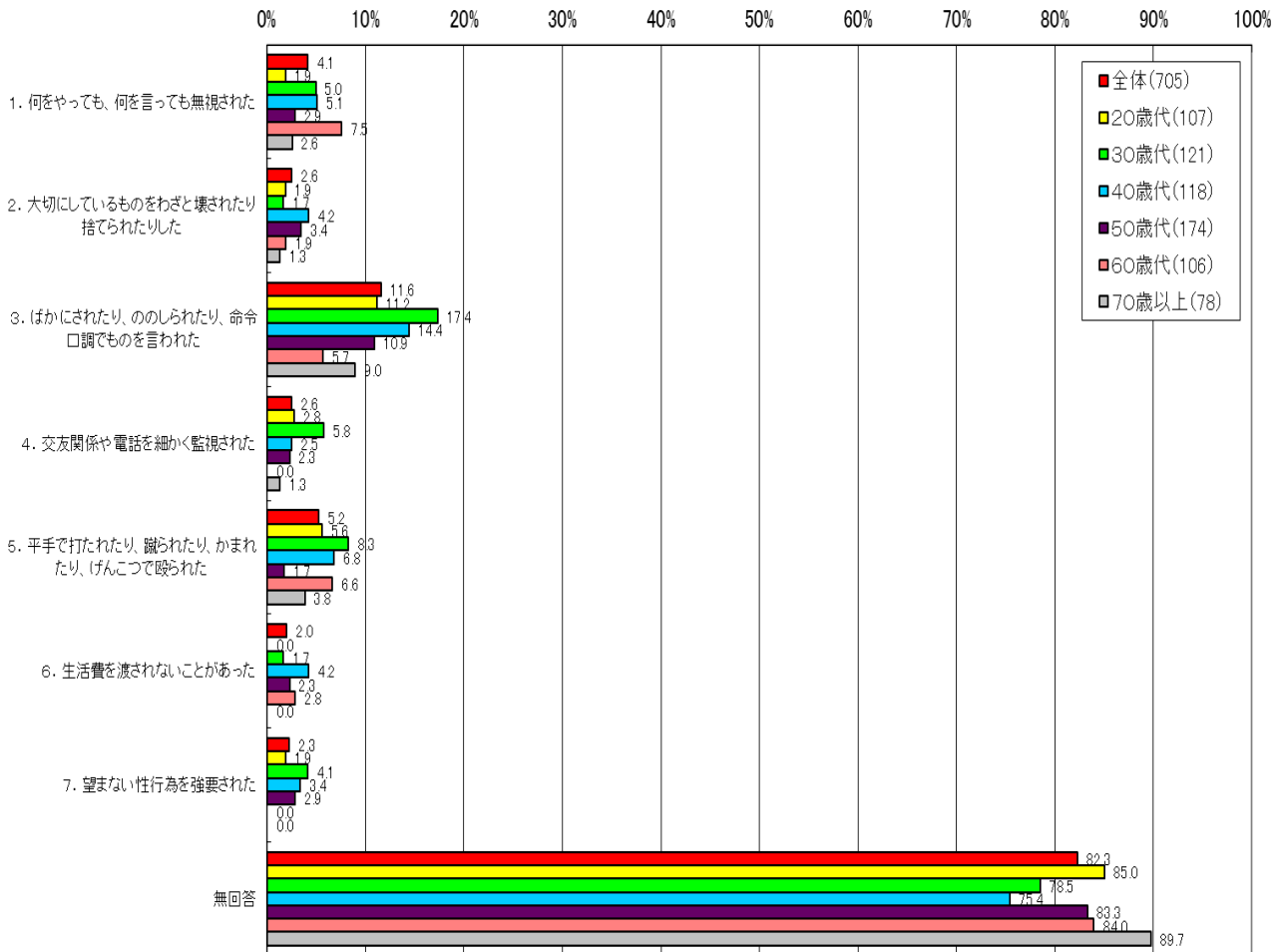
受けた暴力の中では、「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた」が11.6%で最も多く、1割を超えています。



【性別】

男女とも「無回答」の割合が最も多くなっており、多くの人がパートナーから暴力を受けた経験がないと考えられます。「無回答」の割合は男性回答者が87.0%であるのに対し、女性回答者は78.2%と男性回答者よりも低くなっています。このことから、男性回答者よりも女性回答者のほうが暴力を受けた経験があるという結果になっています。

受けた暴力の中では、「大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりした」以外のすべての項目でその暴力を経験したと回答した女性回答者の割合が、男性回答者の割合を上回っています。



【年齢別】

いずれの年齢層でも「無回答」の割合が最も高く、多くの人がパートナーから暴力を受けた経験がないという結果になっています。

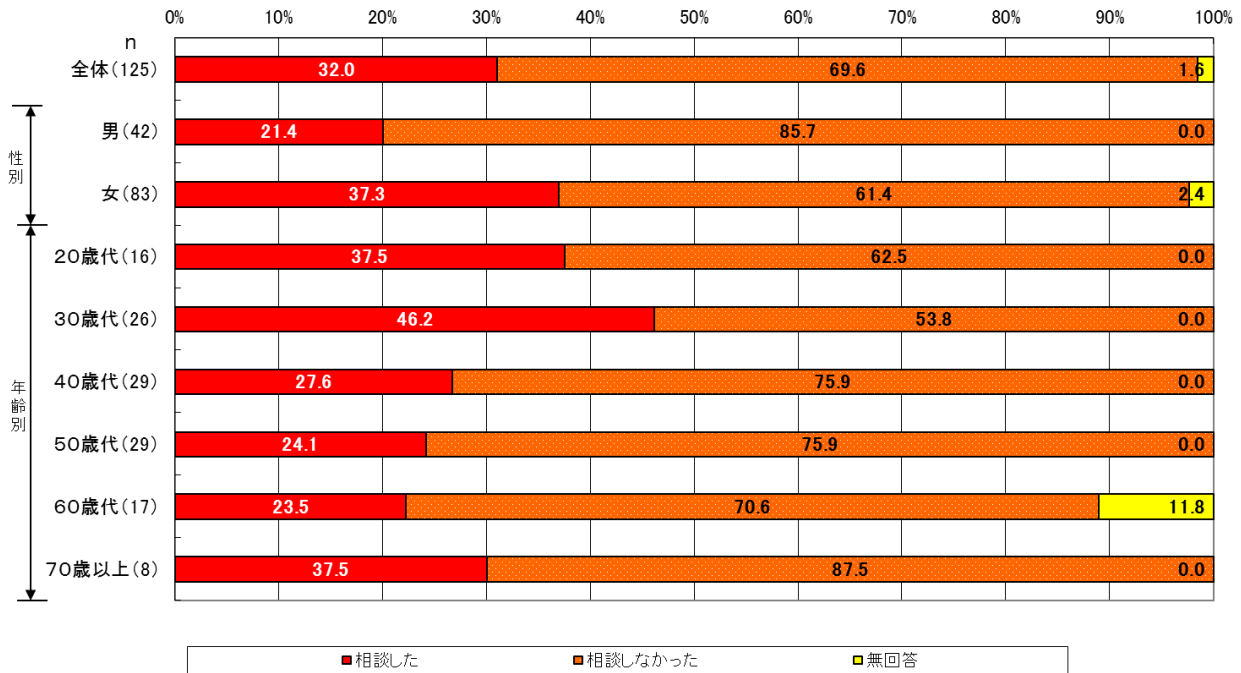
「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた」と回答した人の割合は、30歳代で17.4%と最も高く、次いで40歳代で14.4%となっています。

「平手で打たれたり、蹴られたり、かまれたり、げんこつで殴られた」と回答した人の割合は、30歳代で8.3%と最も多く、次いで40歳代で6.8%となっています。

したがって、30歳代、40歳代では他の年齢層に比べ、パートナーから何らかの暴力を受けた人が多くなっている傾向にあります。

5-3 配偶者等の暴力にかかる相談

問20-1 問20で〇が1つ以上あった方のみお答えください。問20で挙げたような行為について誰か(どこか)に相談しましたか。(〇は1つ)



【全体】

「相談しなかった」と回答した割合が69.6%と約7割を占めています。

【性別】

男女とも「相談しなかった」と回答した割合が高く、男性回答者は85.7%と8割強、女性回答者は61.4%と6割強を占めています。

【年齢別】

いずれの年齢層でも「相談しなかった」と回答した割合が高くなっています。しかし、30歳代では「相談した」と回答した割合が46.2%と5割弱で、他の年齢層よりも高くなっています。

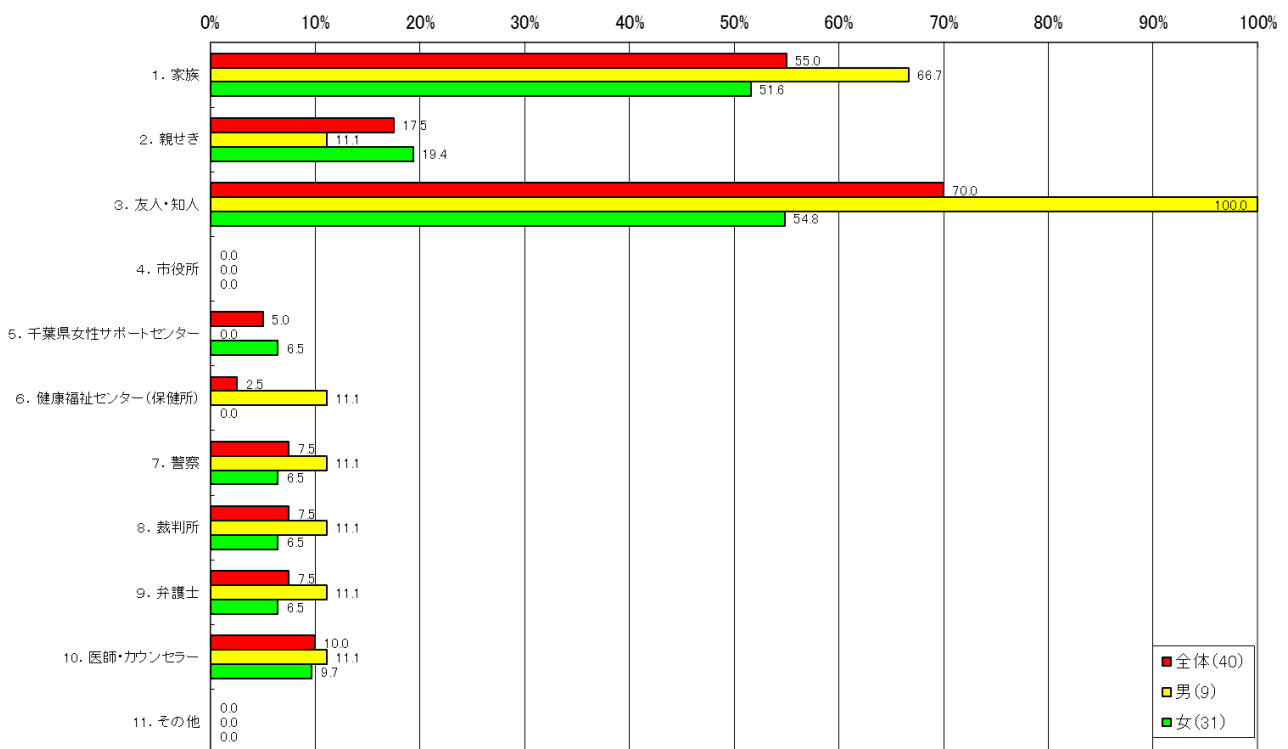
5-4 配偶者等の暴力にかかる相談先

問20-2 問20-1で「1」と回答した方のみお答えください。実際に誰(どこ)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに〇)

【全体】

「友人・知人」の割合が70.0%と7割を占め最も高く、次いで「家族」(55.0%)、「親戚」(17.5%)の順で割合が高くなっています。

「医師・カウンセラー」に相談した人の割合が10.0%で1割となっています。

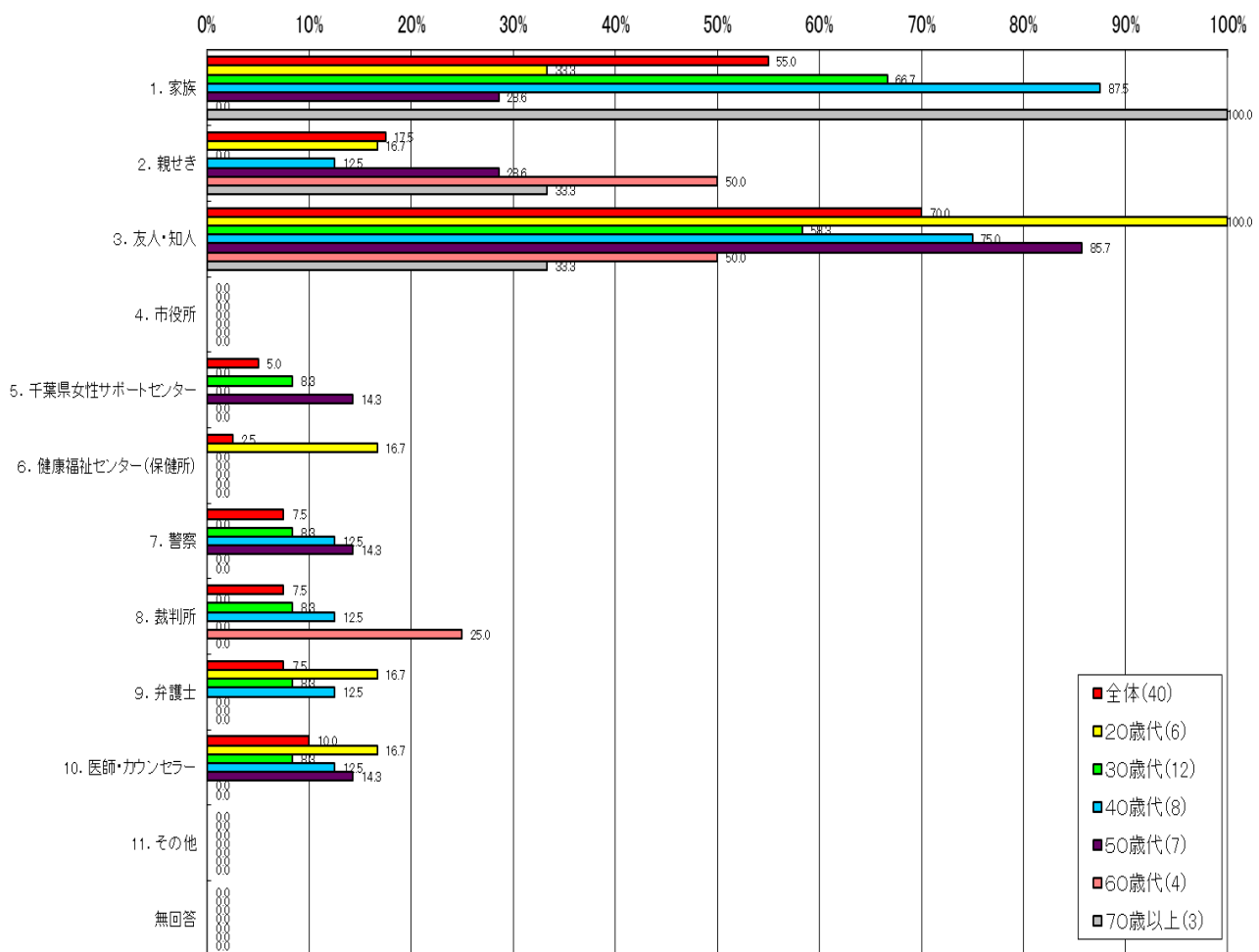


【性別】

男女とも「友人・知人」に相談したと回答した割合(男性100.0%、女性54.8%)が最も高く、次いで「家族」と回答した割合(男性66.7%、女性51.6%)となっています。

男性においては「親せき」「健康福祉センター(保健所)」「警察」「裁判所」「弁護士」「医師・カウンセラー」に相談したと回答した割合が、それぞれ11.1%(1人)となっています。

「千葉県女性サポートセンター」は、男性回答者には該当がありませんが、女性回答者では6.5%(2人)となっています。



【年齢別】

「家族」に相談したと回答した人の割合は、70歳以上で100.0%、40歳代で87.5%と高くなっている一方、60歳代では、0.0%となっています。

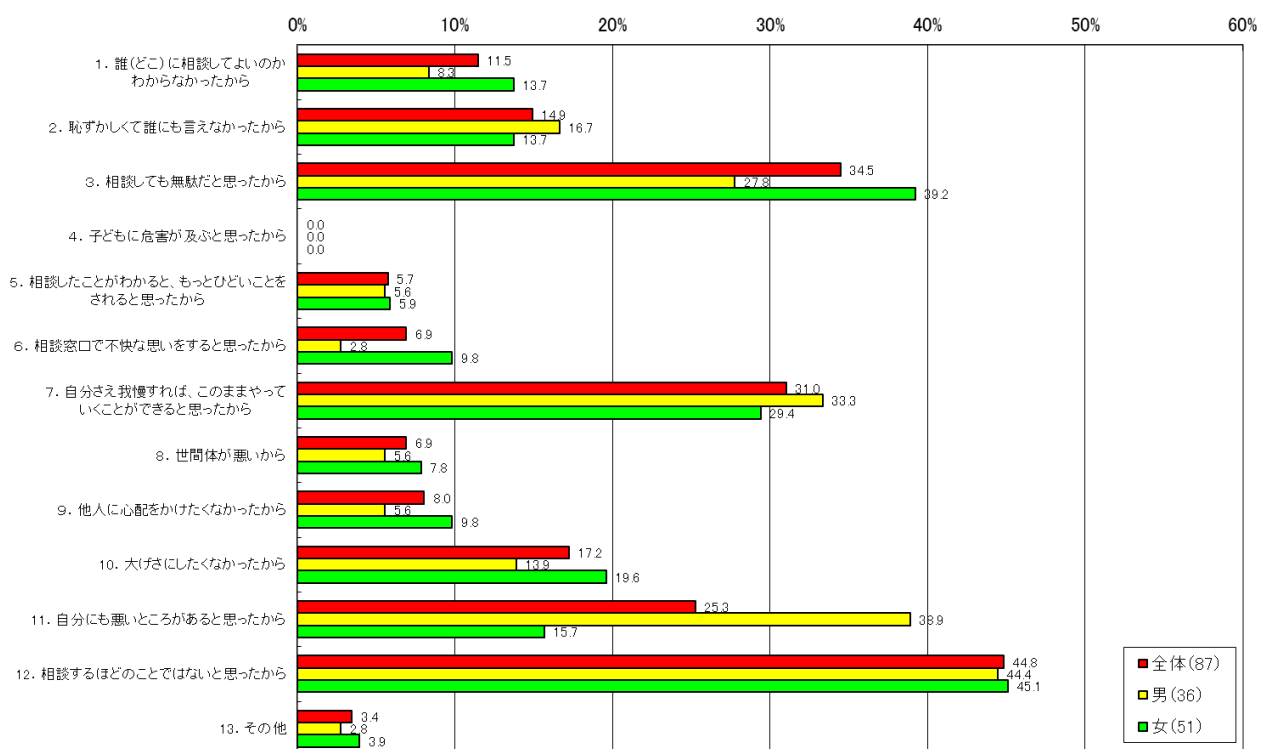
「友人・知人」に相談したと回答した人の割合は、20歳代で100.0%、50歳代で85.7%と高くなっています。

5-5 配偶者等の暴力にかかる相談をしなかった理由

問20-3 問20-1で「2」と回答した方のみお答えください。誰（どこ）にも相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

【全体】

「相談するほどのことではないと思ったから」という理由が44.8%と最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が34.5%、「自分さえ我慢すれば、このままやっていくことができると思ったから」が31.0%という順で多くなっています。

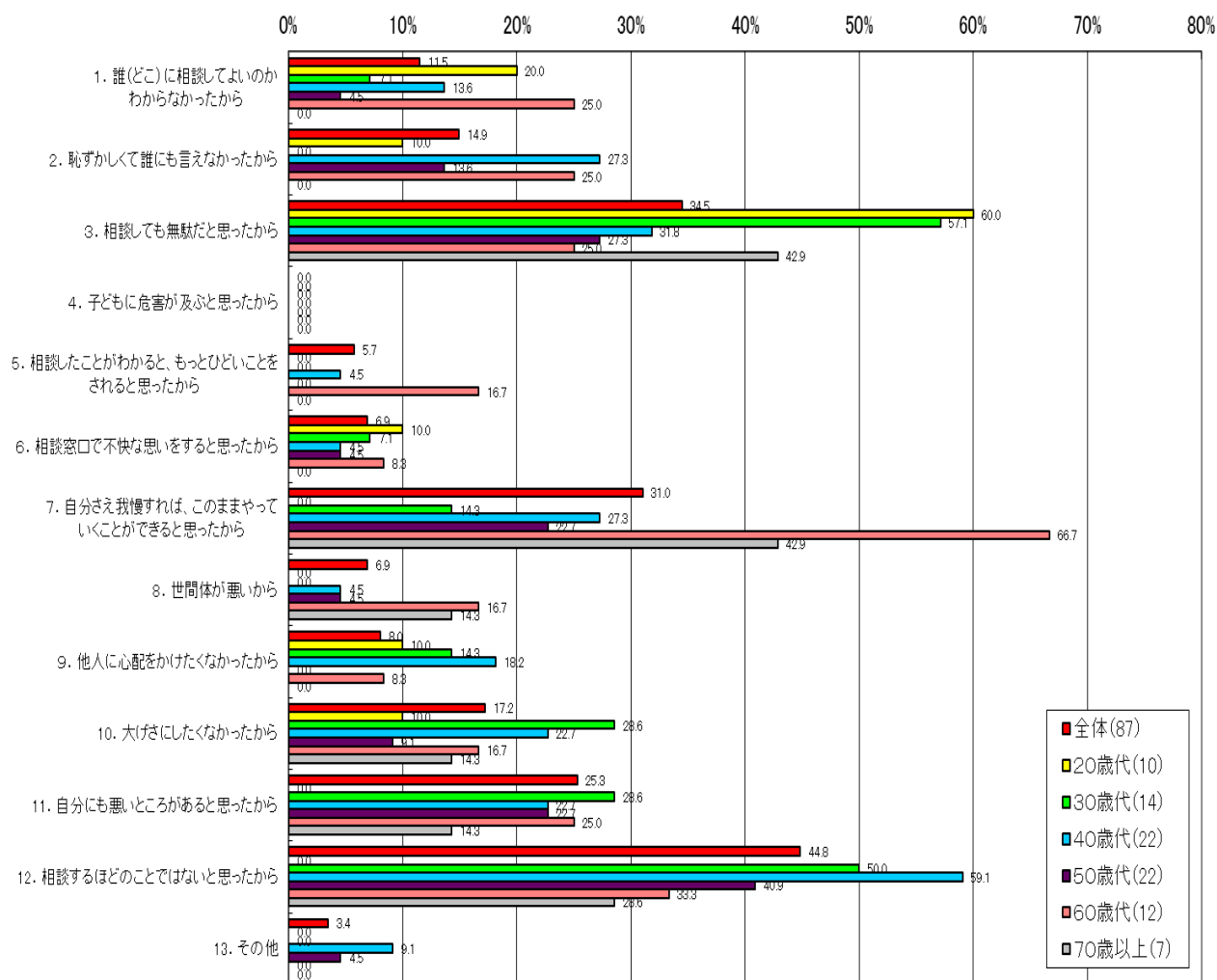


【性別】

男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」（男性44.4%、女性45.1%）という理由が最も多くなっています。

「相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合は、男性回答者が27.8%であるのに対して、女性回答者は39.2%で、男性回答者よりも女性回答者のほうが高くなっています。

「自分にも悪いところがあると思ったから」と回答した割合は、男性回答者が38.9%であるのに対して、女性回答者は15.7%で、男性回答者と女性回答者のポイント差が顕著になっています。



【年齢別】

各年齢層において、誰（どこ）にも相談しなかった理由は多岐に及んでいます。

「相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合は、20歳代（60.0%）、30歳代（57.1%）で他の年齢層よりも高くなっています。

「自分さえ我慢すれば、このままやっていくことができると思ったから」と回答した割合は、60歳代で66.7%と最も高くなっています。

「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した割合は、40歳代で59.1%と最も高くなっています。